



▲石廊崎沖は比較的底が平たんで釣りやすいためキンメ入門にもおすすめ

●Tackle Guide
 キンメ仕掛けのハリ数は規定で20本以下と決まっているが、日が昇ると反応が底付近に沈むため、上ハリに掛かる率はかなり減る。このため、朝のうちは20本、その後は15本程度に抑えるようにすれば無駄がない。

着底は明確。糸フケを巻き取るとわずかに竿先が震えているのが分かる。アタリがあったので道糸を少しづつおぼしていき、今度はトモの私から順に巻き上げるよう指示が出る。残り5メートルで手巻きに切り換え、仕掛けが見えたとこで竿を立てて糸をつかみ、取り込みに入る。かなり重い。これは速い上潮の抵抗だろう。たぐり上げていくと海面下に赤い魚影がいくつも見える。取り込んだキンメは計7枚。

サイズは0.6〜0.8キロが主体。型は小ぶりというよりは、これくらいあれば不満はない。自分としては1投目から上出来だと思っていたが、ほかの人たちはさらに上をいき、ミヨシから順に11枚、13枚、14枚で、1回の投入で早くもツ抜けを達成。このペースが続けば束釣りの夢ではなさそうだが、そう甘くはない。水深が浅いことも影響して

れば、道具も少しずつ増え、たいていの釣り物に対処できるようになるが、深海用は高価なうえに使い回しも効かないからなかなか購入には至らない。今回持って行った道具も、2年ほどホコリを被っていたわけだから、使用頻度も推して知るべし。

1投目は全員多点掛けというところで7月13日にキンメ狙いで南伊豆石廊崎の愛丸へ出かけた。集合は2時半。今のところ曇天だが、しばらくすると雨になる予報だ。3時になり3人のお客さんとともに、佐野護船長の操船で河岸払い。ポイントが石廊崎沖。南伊豆方面のキンメといえば新島沖がメインポイントとしてあまりに有名だが、このところ

か、2投目以降はガクンと釣果が落ちるのが常だという。深海入門にも最適 だいぶ明るくなってきたので、撮影のため2、3投目はパスすることにしたが、案の定全員空振りになる。4投目は6時50分、この日も私はパスして様子を見ていたが、ミヨシの人だけキンメ8枚にクロムツ2尾を取り込んだ。なんでも着底直後にアタリがあったので、70メートルまで糸を出したとのこと。こんなこともあるから、日が昇ってから油断は禁物だ。キンメ釣りでは一日の投入回数が8回と決められており、私が用意した仕掛けは4組。残り3組を5〜7投に賭けた。後半は根の縁に当たる少々深みを中心に攻めた。それでも最深部で30メートルほどのアタリは依然遠かったものの、3投で3枚を追加して計10枚で終了。ラストの8投目が終わったのが10時45分。釣果はミヨシから順に35枚、20枚、21枚。ツ抜けも厳しい新島方面に比べたら、上々の成績といえるだろう。ちなみに一日を通して根掛

●船宿information
 南伊豆石廊崎
愛丸
 ☎0558-62-1307
 (詳細は巻末の情報欄参照)

佐野 護船長

▶料金=キンメ乗合一人2万円(水、オモリ付き)
 ▶備考=予約乗合、集合時間は要確認。モロコ乗合へも。貸し道具、仕掛け常備



▲早朝の一投目は全員多点掛けでキャッチ。石廊崎沖のキンメは夏も期待大

これまで、深海釣りの際はたいてい下田在住の従兄弟に同行してもらっていた。キンメ一筋、週2ペースで釣行するベテランなので、アドバイスはもらえるしモデルとしても役に立つ。何より道具、仕掛けなどすべておんぶにだっこだから、クラーラだ

けあれば事足りるのがありがたかった。しかしこの従兄弟、2年ほど前に年齢と体調を理由に釣りを引退してしまった。その際、道具一式を譲り受けたので、今回は自前タックルでの単独釣行となる。沖釣りも40年近く続けている

型は小ぶりも数は順調 石廊崎沖の夏キンメ

●南伊豆石廊崎発→石廊崎沖
 フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe

1投目は全員多点掛けというところで7月13日にキンメ狙いで南伊豆石廊崎の愛丸へ出かけた。集合は2時半。今のところ曇天だが、しばらくすると雨になる予報だ。3時になり3人のお客さんとともに、佐野護船長の操船で河岸払い。ポイントが石廊崎沖。南伊豆方面のキンメといえば新島沖がメインポイントとしてあまりに有名だが、このところ

投入開始時間の4時20分まで待機してから、ミヨシから順に入れるよう船長からアナウンスがある。水深は30メートル。キンメ釣り場としては浅い部類。海

イルカの回遊に加えて底潮が動かず、極めて厳しい状態とのこと。そのため船によっては式根島まで足を延ばしているそうだが、それでも数のほうはまとまっていないうだ。

底が平たんで浅いとすれば、思い出されるのが石廊崎。下田から南東方向、新島沖へ向かう途中にあるポイントで、多くの船は朝一番にここで投入し、土産を確保してから新島沖へ向かうのが定番コースだった。 だったと過去形なのは、数年前からまったくといっていいほど釣れなくなったため、現在は禁漁中。 その後、資源は回復しているようで、反応はバッチリ出ているという。来年5月に解禁になるといふから楽しみだが、全員無事に投入を終えるのが、上潮がカッ飛んでいるようで、道糸は正面に向かって横方向にのびている。ただ、船長から糸は横でも仕掛けは船下に入っていると説明がある。

知得! Tips and Tricks レンタルタックル

通常、沖釣りでレンタルタックルを使うのはビギナーと相場が決まっているが、深海釣りの場合はそうでもない。今回際で竿を出していたベテランもレンタルの利用者だ。 様々な釣りをたしなむため、深海釣りは年間にせいぜい4〜5回。一式30万円もするようなタックルを購入するより、1回3000円のレンタルタックルを借りたほうがいいとの判断に落ち着いたという。仕掛けは1組1000円。これも自分で作る場合の原価と手間を考えると、決して高くはないと思う。

▲フルレンタルの場合は乗船料とタックル、仕掛け、エサ代込みで3万円